【問い合わせ先】
海洋情報部監理課
監理課長　長瀬　裕介
電話 052-661-1611（内線 2510）

令和３年７月１３日
第四管区海上保安本部

海図１５０周年記念展示を開催します！
～明治から現代までの海図・海の調査の変遷～

第四管区海上保安本部では、令和３年に我が国独自による海図の作製開始から１５０周年を迎えることから、博物館明治村の協力の下、「明治から現代までの海図・海の調査の変遷」と題して企画展示を行います。
我が国が初めて作製した岩手県釜石港の海図や愛知県・三重県で最も古い海図などを多数展示しますので、ぜひご覧ください。

１　期間

令和３年８月７日(土)～９月２６日(日)（博物館明治村の休村日を除く）
８月　午前１０時００分～午後５時００分
９月　午前　９時３０分～午後５時００分

２　場所

博物館明治村 北里研究所本館・医学館２階
所在地：愛知県犬山市字内山１番地
URL：https://www.meijimura.com/

３　企画展示の趣旨及び概要

明治４(1871)年９月１２日(旧暦７月２８日)、兵部省海軍部に水路局が設置され、我が国が単独で海の測量から海図の作製までを一貫して行う本格的な水路業務を開始し、明治５年に海図「陸中國釜石港之圖（りくちゅうのくにかまいしこうのず）」(現在の岩手県釜石港)を刊行しました。初代水路局長は、津藩(現在の三重県)出身の柳楢悦(やなぎならよし、1832-1891)で、勝海舟らとともに長崎海軍伝習所でオランダ式の航海・測量術を学び、日本人のみでの測量を精力的に推進しました。

現在、この業務は、海上保安庁海洋情報部が実施しており、令和３年で１５０周年を迎えます。

企画展示では、博物館明治村の協力の下、水路局設立当時の海図や海図の印刷に用いた銅版、水深を測る際に使用した測量機器等を展示するほか、明治から継承しつつ進化した海の調査技術や海図の変遷を紹介します。また、赤青眼鏡で立体的に見える日本周辺の海底地形図も展示します。

４　主な展示物

① 海図第１号「陸中國釜石港之圖」（明治５年刊行）海図、印刷用銅版
　我が国のみで測量を実施し作製した我が国最初の海図

② 明治時代～現代の愛知県・三重県沿岸等の海図
・海図第 11 号「伊勢之國礫港之圖」（明治６年刊行）
　現在の三重県五ケ所湾の海図で、愛知県・三重県では最も古い海図
・海図第 126 号「勢志尾參沿海」（明治１４年刊行）（国立国会図書館蔵）
　伊勢湾・三河湾全体を描いた海図としては最も古い海図
・海図第 60 号「品川灣」（明治２５年刊行）
　品川燈台、隅田川新大橋など博物館明治村内の施設が記載

③ 明治時代に使用していた測量機器
　六分儀：物標（目標物）や天体の角度・高度を測定する計器
　三桿分度器：六分儀で測定した角度を海図に記入する際に使用する器具
　測鉛：綱の先に鉛のおもりをつけたもので水深を測る際に使用する器具

④ ３Ｄ海底地形図　　など

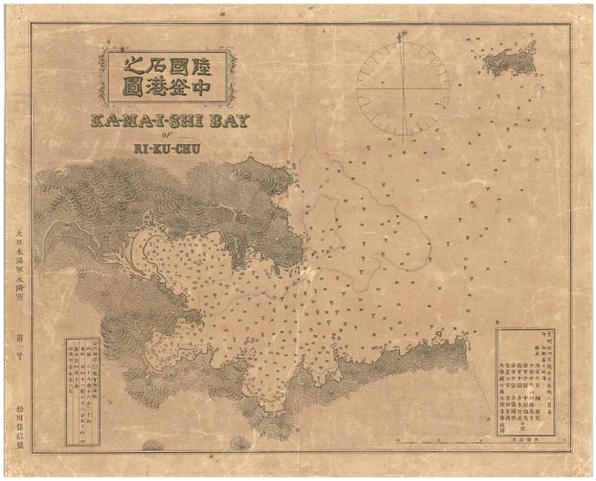
４　取材の申し込み

　現地取材をご希望される社は、取材予定日の１週間前までに、上記問い合わせ先までご連絡ください。

５　その他

・本記念展示の見学は無料です（ただし、博物館明治村への入村には、入村料が必要となります）。
・来場の際には、博物館明治村が実施している新型コロナウイルス感染予防・拡散防止対策にご協力ください。

海図第１号「陸中國釜石港之圖」（明治５年刊行）の海図（左）、印刷用銅板（右）

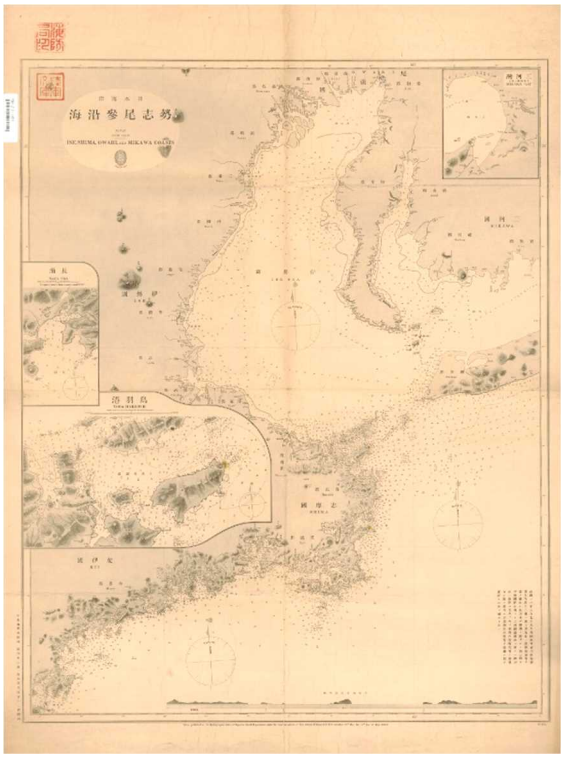


（現在の岩手県釜石港）

海図第 11 号「伊勢之國礫港之圖」
（明治６年刊行）

（現在の三重県五ケ所湾）

海図第 126 号「勢志尾參沿海」
（明治１４年刊行、国立国会図書館蔵）

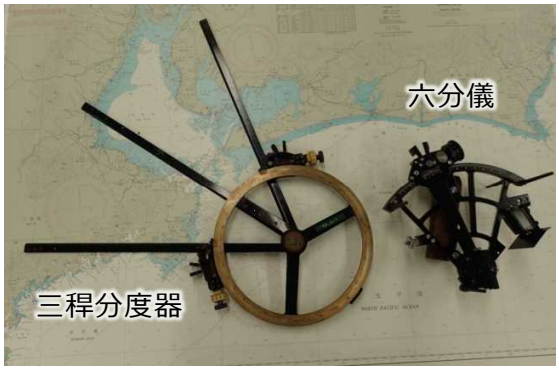


（現在の伊勢湾・三河湾）

海図第 60 号「品川灣」
（明治２５年刊行）

（現在の東京湾北西部）

測量機器（六分儀、三稈分度器）



３Ｄ海底地形図（イメージ）